

株式会社東陽テクニカ 中期経営計画

2018年10月-2021年9月

代表取締役社長
五味 勝



TY2021

目次

- ／ 企業理念
- ／ 当社の事業特性
- ／ 業績推移
- ／ 近年の課題
- ／ 中期経営計画概要
- ／ 経営方針
 - 》 自動車産業への注力
 - 》 海外事業の伸張と新しい事業モデルの確立
- ／ まとめ
 - 》 中期経営計画まとめ
 - 》 経営目標数値
 - 》 資本政策
- ／ 参考
- ／ 用語解説

資料内の※は末尾に用語解説されていることを示します

企業理念

“はかる”技術で未来を創る

はかる技術のリーディングカンパニーとして、豊かな社会、人と地球に優しい環境創りに貢献する

テクノロジーインターフェース

最先端の計測ソリューションを世界の産業界に提供し、技術革新を支援・促進する

企業価値の向上

計測システム・製品・サービスを創造し続けることで企業価値を向上させ、ステークホルダーと社員に繁栄をもたらす

行動指針

プロフェッショナルであれ

誠実に物事に取り組み、品位と能力の向上に努める

イノベーターであれ

柔軟な発想と勇気を持って、新しい技術や事業に挑戦する

当社の事業特性

事業内容

海外の高性能、最先端の計測ソリューションを研究開発市場へ提供する

主な研究開発市場：自動車、情報通信、物性・エネルギー、海洋計測など

設立 : 1953年9月4日

資本金 : 41億5,800万円

従業員 : 521名（連結）2018年9月30日時点

上場 : 東京証券取引所 第一部



Biomation社製ロジックアナライザ
(1976年発売)



東陽テクニカ製パケットキャプチャ
(2015年発売)

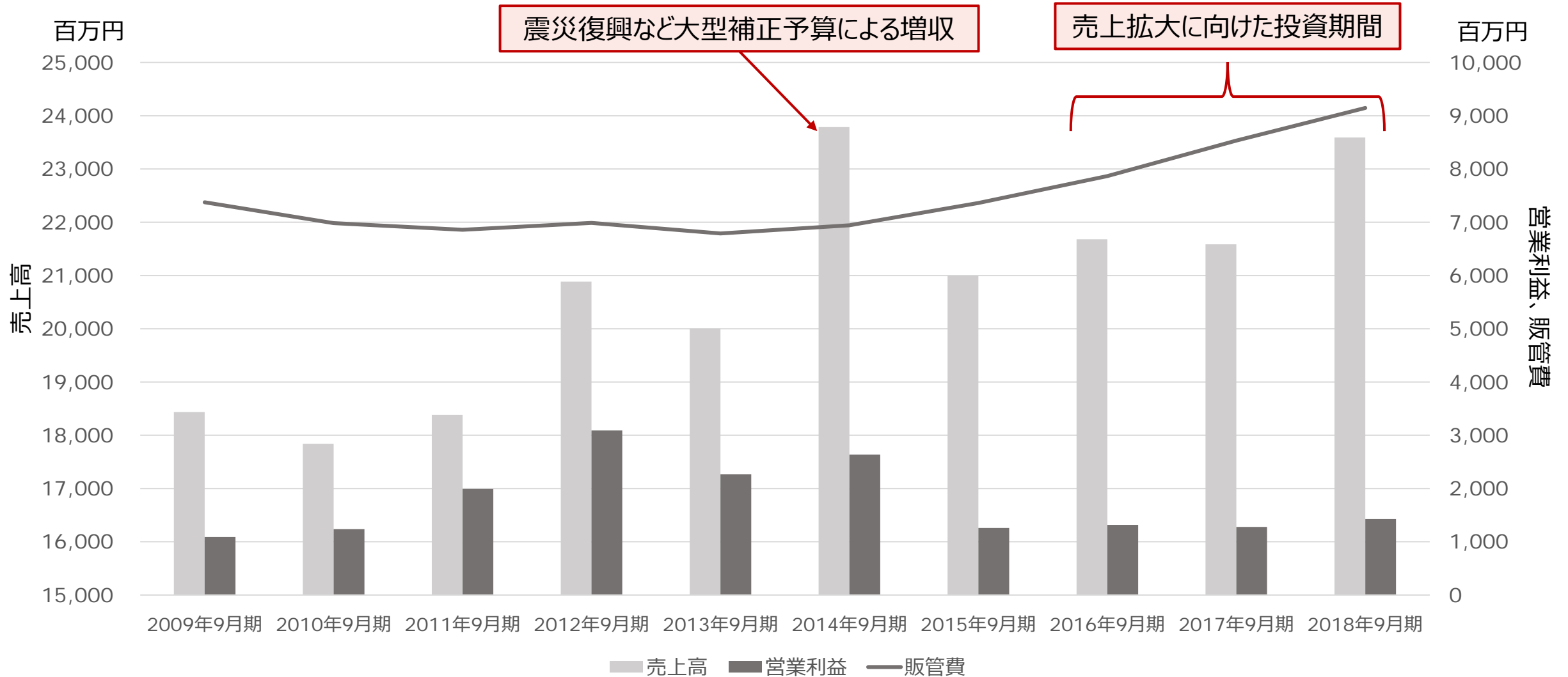
ビジネスモデル

- ・研究開発市場に特化
- ・販売後は手厚い技術サポートを提供
- ・カスタマイズにより価値を付加



ニッチ市場 高利益率

業績推移



近年の課題

売上拡大が難しい国内市場

国内の研究開発市場

- ・一部の研究開発市場が海外へ移転
- ・公的機関向けのビジネスは政策（補正予算など）の影響を受ける

輸入販売に頼った事業モデル

欧米を主とするパートナー企業の代理店業

- パートナー企業の経営方針変更によるリスク
- ・M&Aや日本法人設立による販売権の喪失
 - ・独占→非独占販売による販売機会の喪失

**成長市場への投資を通じた
業容の拡大**

**環境変化に影響を受けない
新たな事業モデルの確立**

過去3年の投資を収益化し 売上拡大につなげる

過去3年間の主な投資

- 2017年 ワン・テクノロジーズ・カンパニーを設立
技術研究所を設立
技術研究所内にテクニカルリサーチラボを開設（神奈川県厚木市）
業務基幹システムを一新
- 2016年 セキュリティ&ラボカンパニーを設立
- 2015年 TOYOTech LLCを設立（米国カリフォルニア州）
高速ポケット※キャプチャシステムSYNESISの開発を開始
(米国PolyVirtual社買収)

中期経営計画

TY2021

2021年9月期

連結売上高
260億円

連結営業利益
20億円

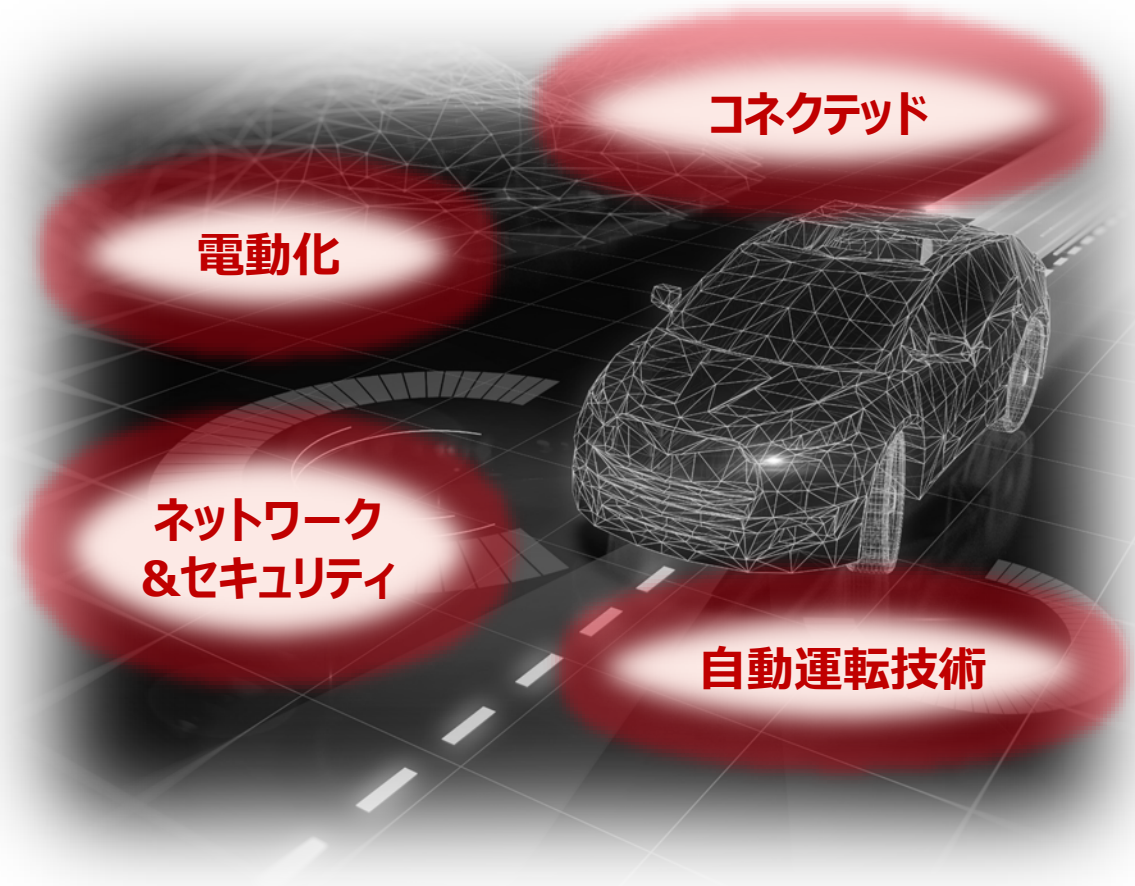
ROE
5.0%

経営方針 1

～自動車産業への注力～

自動車産業における当社の活動

研究開発投資が集中する技術分野に注力



商材の拡充

- ✓ これまで培った国内外のネットワークを通じて重点分野にフォーカスした商材の発掘
- ✓ 自社開発ソリューションを市場へ投入

販売力の強化

- ✓ 4つの重点分野に人材を集約し営業力を強化
- ✓ 横串活動により技術ノウハウを集約、複数部門が連携し、顧客に最適なソリューションを提案

トレンドの技術分野へ投入する“はかる”技術

電動化

二次電池評価

- ・航続距離拡大に伴う高性能化
- ・超急速充電装置の開発・評価

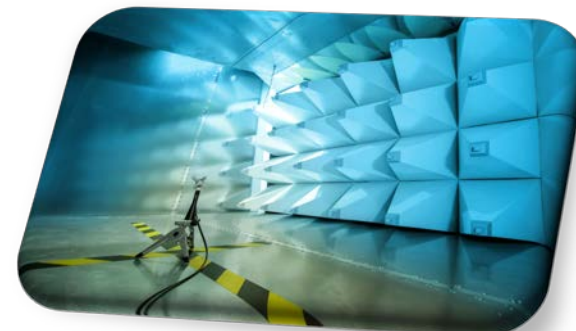


バッテリーチャージャー品質評価

コネクテッド

V2X※評価

- ・車両通信品質の向上
- ・電磁ストレス環境下での通信機誤動作評価
- ・交通シナリオのシミュレーション



車載アンテナ評価

ネットワーク&セキュリティ

車載ネットワーク※評価

- ・通信のリアルタイム性やフェイルセーフの確保
- ・クラウドとの連携を考慮したセキュリティ対策

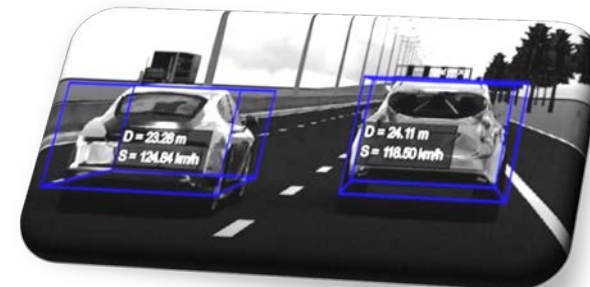


ネットワーク評価、セキュリティチェック

自動運転技術

車両挙動評価

カメラなど各種センサーと車両挙動の評価



自動運転車用センサ(LIDAR※)

自社開発ソリューションの一例

Driving & Motion Test System

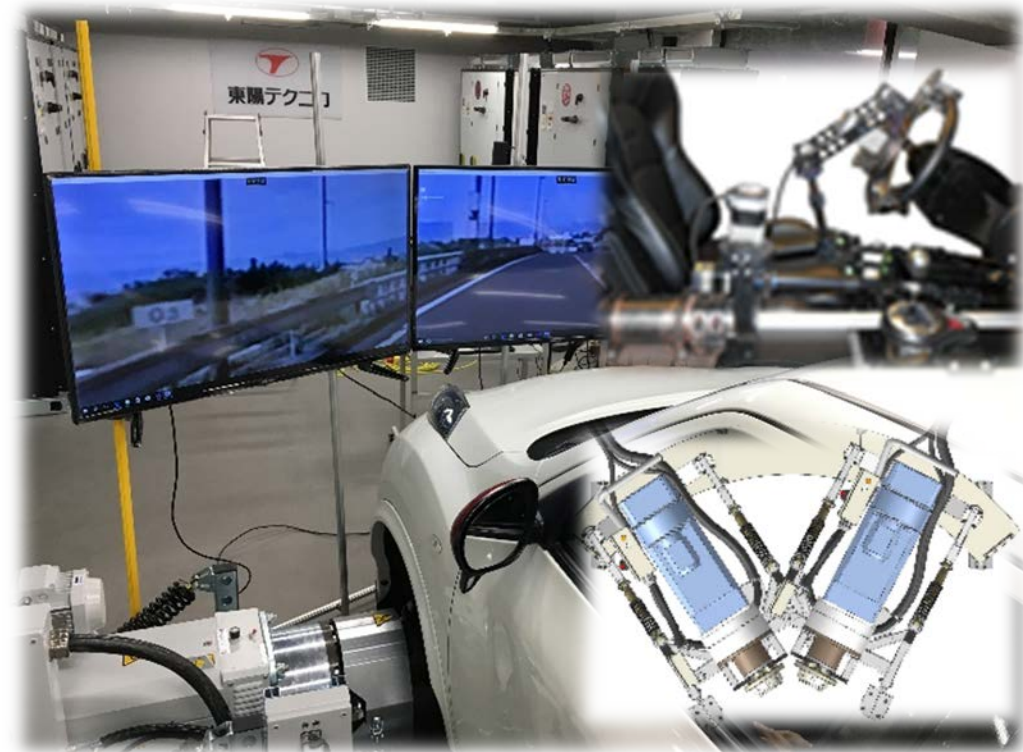
ADAS※や自動運転車の開発における課題

- ・開発複雑化に伴うテスト時間の増加と人員確保
- ・テストコースや公道における実走行試験が必須

DMTSは室内試験を実走行試験の環境に限りなく近づける理想的なソリューション

- ✓ 2019年初旬に販売開始
- ✓ 今後も継続した投資によりDMTSの開発を促進し、自動車関連事業の売上拡大に寄与

DMTS®



DMTSは東陽テクニカの登録商標です

経営方針 2

～海外事業の伸張と新しい事業モデルの確立～

海外事業の方針

大型市場での事業拡大を推進

「研究開発投資が拡大する中国」

「自動運転の研究が盛んな北米」

✓ 販売網の拡大

中国、北米の現地法人を核として販売代理店網を拡大

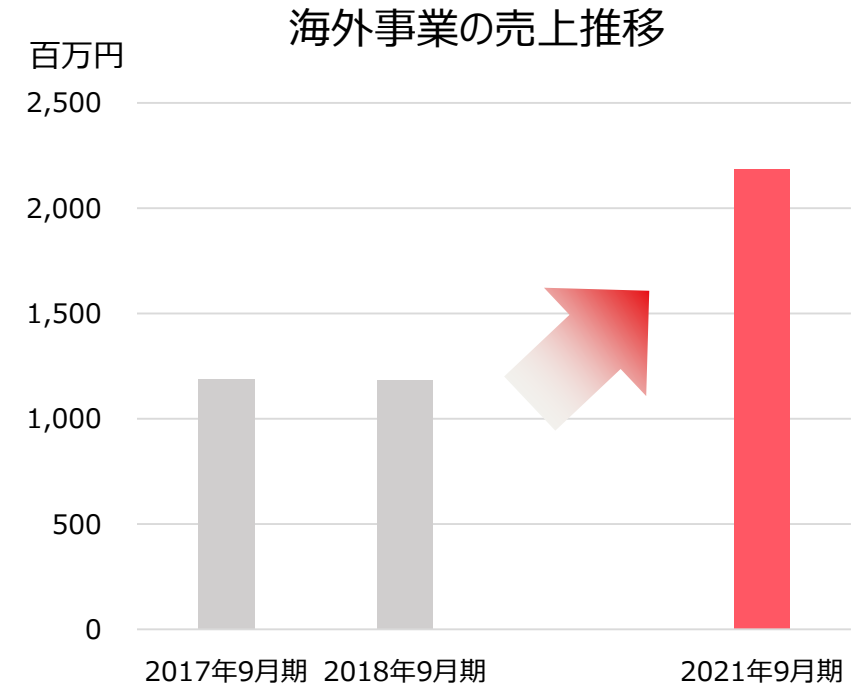
✓ 自社製品の海外展開

日本だけでなく海外市場を視野にいれた製品・サービスの企画・開発

✓ 海外での商材を拡充

これまで日本でのみ取り扱っていた商材の海外販売権を取得

海外売上高 + 10億円
(2018年9月期比)



海外事業の近況と今後の取り組み

主な自社製品

- ・高速パケットキャプチャシステム “SYNESIS”
販売エリア：アメリカ、イギリス、ドイツ、イスラエル、オーストラリア
中国、香港、韓国、台湾、シンガポール、インドネシア
- ・不純物イオン測定システム “LT1000”
(2019年初旬 販売開始予定)
販売エリア：アメリカ、ドイツ、中国、韓国、台湾

販売エリアは順次拡大予定

海外販売権

- ・車両走行性能評価システムのアメリカにおける代理店権を取得
(2018年10月より販売開始)



SYNESIS、LT1000は当社
ワン・テクノロジーズ・カンパニーの自社製品です



SYNESIS



LT1000

まとめ

中期経営計画まとめ

新規事業
収益化

✓ 自動車産業への注力

- ・トレンドの技術分野に商材と経営資源を集中
- ・研究開発成果を組み合わせるオンリーワンソリューションを提供

✓ 海外事業の伸張

- ・販売網の拡大、販売権の拡充
- ・中国や北米のEV、自動運転車の研究開発市場に向けて販売体制を強化

✓ 新しい事業モデルの確立

- ・自社製品の企画・開発体制を確立
- ・今後3年間で約20億円の開発投資

売上拡大

2021年9月期売上(対18年比)

地域別売上

国内

+15億円

海外

+10億円

分野別売上

自動車関連

+15億円

既存 + 新規

+10億円

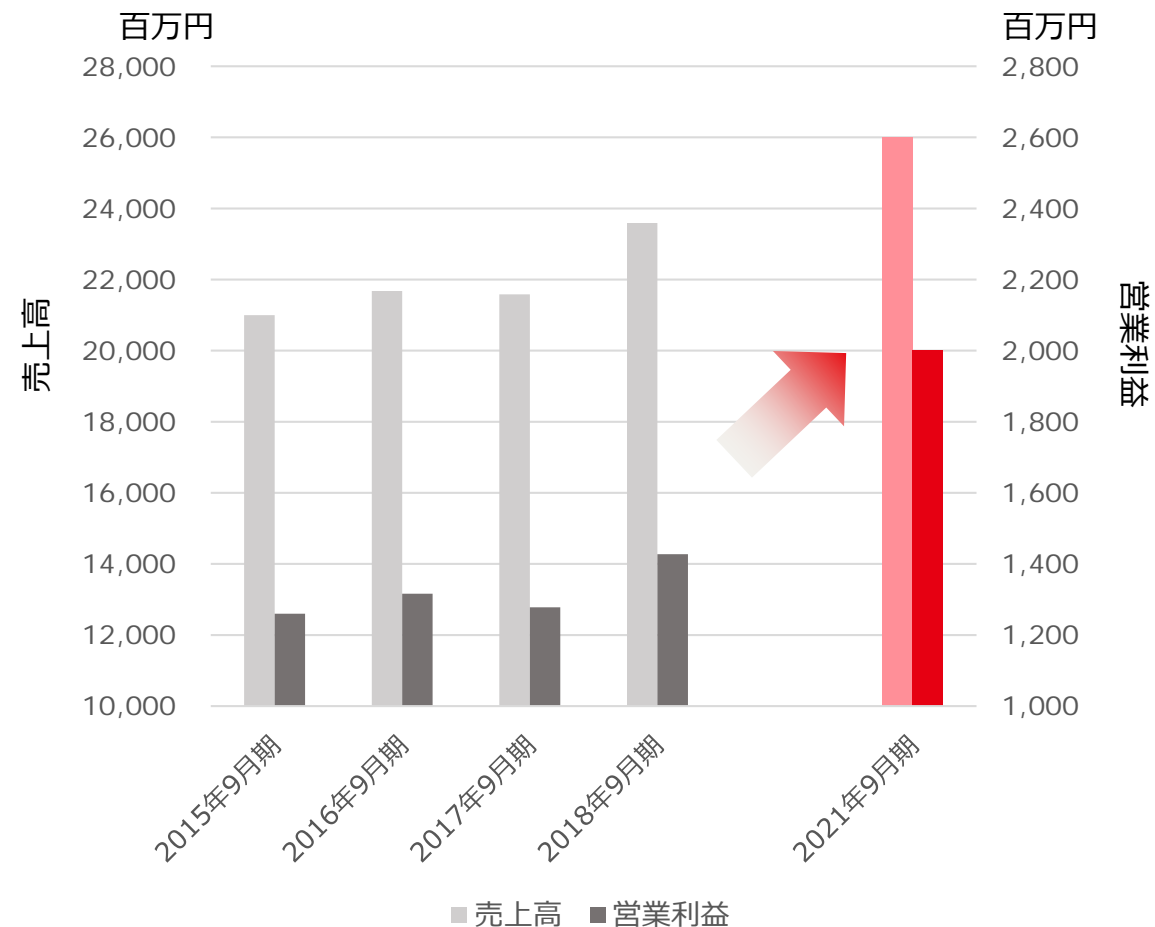
経営目標数値

単位：百万円

(連結)	2018年9月期	2021年9月期	対18年比
売上高	23,590	26,000	110.2%
営業利益	1,427	2,000	140.1%
ROE	4.1%	5.0%	

- ✓ 連結売上高260億円
- ✓ 連結営業利益20億円
- ✓ ROE5.0%

連結売上高・営業利益推移



資本政策

60%の配当性向を継続

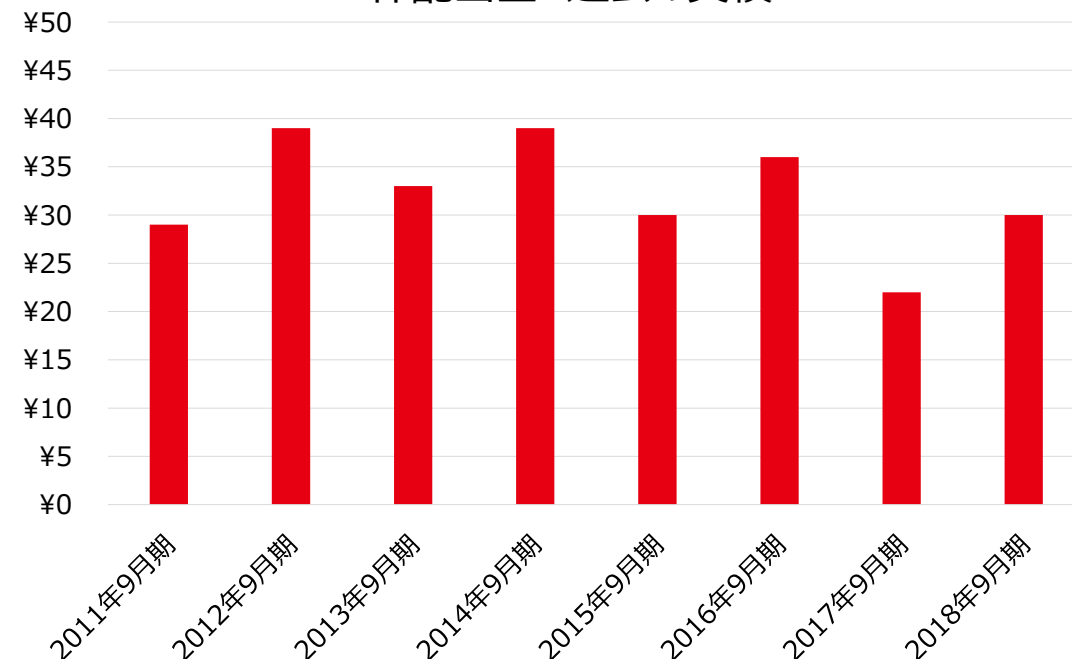
健全な財務体質を維持することを前提に、配当性向の下限を連結当期純利益の60%程度とし経営環境を勘案した積極的な配当を行う

自己株式取得について

資本効率の向上のために自己株式の取得を適宜検討する

取得した自己株式は、M&Aなど、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策および株主価値向上に用いる

1株配当金 過去の実績



自己株式取得実績

取得時期	取得数	取得額
2009年9月期	1,688千株	1,999百万円
2013年9月期	1,632千株	1,999百万円
2015年9月期	1,695千株	1,800百万円
2016年9月期	1,104千株	1,173百万円

*はかる*技術で未来を創る



参考

／ 自動車計測ポータル

<https://www.toyo.co.jp/solution/car/>

／ セキュリティ&ラボカンパニー

<https://www.toyo.co.jp/slc/>

／ ワン・テクノロジーズ・カンパニー

<https://www.toyo.co.jp/onetech/>

／ 高速パケットキャプチャシステム
「SYNESIS」

<https://www.synesis.tech/>

／ 東陽精測系統有限公司

<https://www.toyochina.com.cn/>

／ TOYOTech LLC

<https://www.toyotechus.com/>

用語解説

- ／ ADAS : Advanced Driver Assistant Systems 先進運転支援システム
ドライバーの運転操作を支援し、安全性、快適性を高めるもの
センサーやカメラを利用した自動ブレーキ、クルーズコントロールなど
- ／ V2X : Vehicle to Everything
車と通信でつながる全てのもの 車と車、車と道路、車とインターネットなど
- ／ LIDAR : Light Detection and Ranging 光検出と測距
レーザー光により、障害物や歩行者の情報を検知し、車との距離を測るもの
- ／ 車載ネットワーク
車に搭載される電子制御装置間のネットワーク
- ／ パケット
通信のため分割されたデータ 通信の宛先や送信元など情報が付加されている
- ／ シャシーダイナモ
屋内で車の燃費や馬力を実走行せずに計測する大型装置

TY2021

本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものであり、経済情勢や市場動向の変化等、様々な理由により変化する可能性があります。従いまして、本資料は、記載された目標・予想の達成および将来の業績を保証するものではありません。